

Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.9 ポルトガル語担当 赤城さん

◆なぜ医療通訳者になった？

医療通訳との出会いは、ある病院でのボランティア通訳でした。短い期間でしたが、さまざまな患者さんに会いました。精神的に追い詰められていたのか、医師の何気ない一言に突然泣き出してしまう患者さんや、希望する科で診てもらえないことに怒り出す患者さん…。共通しているのは、自分の言葉で話せない、話してもらえないことのつらさでした。そのハンデを埋めるお手伝いができることにやりがいを感じ、医療通訳を続けています。



◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

医療者のお話を静かに聞いている患者さんも多いですが、逆に患者さんから積極的に質問された時は、両者間の有意義なコミュニケーションを仲介できた実感でき、通訳として信頼してもらえたと思えてとても嬉しいです。一番印象に残っているのは、通訳が終了し通話を切断する直前に、看護師さんの「これすごい！めっちゃ助かった！」という一言が聞こえてきたことです。理屈抜きで素直に嬉しかったです。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

現在私は日常生活でブラジルの方と接する機会がありません。そのため、子どもたちを送り出した後はYouTubeでブラジルのニュースや医療番組を見るのを日課にしています(趣味と勉強を兼ねて)。他にも語彙リストを作ったり、勉強会で配布されたシナリオを1人3役で演じたりしてトレーニングしています。医療者からも患者さんからも信頼され、安心して任せただけのような通訳者を常に目指していきたいと思っています。

ちょっと一言 それって何て言うの？

「ご案内します、こちらへどうぞ。」

英語「I will show you. Please come this way.」

中国語「我带您去，这边请。」
(ウオダイニョンチュ、ジエヒエヨフ)

ベトナム語「Tôi sẽ hướng dẫn bạn, xin mời đi theo lối này.」
(トイセフオズアツパソ、シヨイテオロイナイ)

スペイン語「Le voy a guiar. Pase por aquí por favor.」
(レボイアギアル、パセポルアキポルファボル)

ポルトガル語「Vou acompanhar. Por favor, venha por aqui.」
(ウオアコンパニャー、ポルファウオール、ヴェニャポルアキ)



今月のトピックス

「通訳？翻訳？えっ、同時通訳？」



実は「通訳」と「翻訳」とは別物で、意外と通訳者泣かせなのをご存知ですか？通訳依頼を受けた時に「今から翻訳をお願いします。」と言われて、「遠隔なのにどうやって書くの？」と思ってしまったり、「文書で渡しますから通訳してください。」と依頼されて戸惑うことも・・・。

ひと言で言うと、通訳は「耳で聞いて話す」、翻訳は「目で読んで文字に書く」作業です。「説明文書を渡すのでそのまま通訳してほしい」という依頼に対しては、「ご面倒ですが読み上げてくださるか、口頭で説明してくだされば通訳します。」とお答えします。このような時に説明文書の多言語化の必要性を実感します。通訳センターに来る翻訳依頼件数も着実に増えてきました。翻訳された文書をそのまま患者様にお渡しできれば助かりますよね。医療者様と患者様双方にとっていい方向に向かっていると思います。

ちなみに同じ通訳でも私たちが行うのは「逐次通訳」で、「対話通訳」とも言います。「同時通訳をお願いします。」と言われてびっくりすることがありますが、これは恐らくその場ですぐ通訳を、との意味かだと思います。もちろん、テレビの世界ニュースばりに本当の同時通訳を行うことはできません。なぜなら、話者が話し終わる前にかぶせて通訳していくわけですから。「それぞれのお話をよく聞いて間違いのないように通訳する」、通訳者はそこに細心の注意を払っています。

* 翻訳についてひとつこぼれ話を *

各言語の翻訳が仕上がった後はレイアウトに入ります。これが思った以上に時間を費やす作業です。例えば文字数の問題があります。日本語から外国語への翻訳の場合、中国語は文字数が少なめできれいに収まりますが、他の言語はたいへん長い文章になります。原稿のレイアウトに近づけるための調整は、まさにエンドレスの作業。きれいに仕上がると、「ふう〜っ」とうれしい溜息、気持ちがとてもスッキリします。

